第 157 回 直木賞候補作

『会津執権の栄誉』

あいづしっけん　えいよ

著者の佐藤巌太郎氏は福島高校卒!

さとう　がんたろう

福島市在住の作家が書いた本が直木賞候補になり、書店をはじめ新聞やテレビなどで話題になっているのはご存じでしょうか？　作家の佐藤氏は福島高校の第 32 回卒業生です。今年 4 月に発刊された単行本デビュー作が直木賞にノミネートされました。直木賞とは、直木三十五の功績を記念して創設された賞で、大衆文学(エンターテインメント)の優秀な作品に与えられます。ちなみに芥川賞は無名または新進作家の純文学に与えられる賞です。年２回（1 月と７月）選考会がひらかれ、受賞作が発表になります。次の選考会は７月 19 日(水)です。

＜第 157 回直木賞の候補作＞　＊著者名五十音順

木下　昌輝『敵の名は、宮本武蔵』
佐藤巌太郎『会津執権の栄誉』
佐藤　正午『月の満ち欠け』
宮内　悠介『あとは野となれ大和撫子』
柚木　麻子『BUTTER』

『会津執権の栄誉』

会津に 400 年続く名家・芦名家が滅亡へ向かう経緯を描いた６つの連作集。
家臣団の軋轢、伊達との戦い、内からも外からも崩れていき・・・。

「湖の武将」　芦名氏の宿老の家系・富田隆実は、芦名氏血族の猪苗代家が伊達家と内応しているという噂を耳にする。

「報復の仕来り」　大縄家の足軽大将を斬った人物を探す新次郎の前に、犯人は松尾玄蕃だと証言する男が現れる。

「芦名の陣立て」　芦名軍金上家の大将補佐役の白川芳正は、敵方（伊達軍）の動きよりも味方（佐竹家家臣団）の抜け駆けのほうが気になっていた。

「退路の果ての橋」　芦名軍の足軽として戦に借り出された小源太と仙蔵は、伊達衆が日橋川の橋を落とそうとしていることを知る。

「会津執権の栄誉」　摺上原の戦いは芦名の敗北が決定的となっていた。会津の執権と呼ばれる金上盛備は退却の途中で、伊達本陣への突入を試みる。

「政宗の代償」　命がけで会津を手にした伊達政宗だが、惣無事違反と小田原参陣を遅らせてきたことで関白秀吉の怒りを買い、政宗は危機的状況に陥る。

作成者：司書